

“AI人材”育成の現在地 ～中小企業の効率化に特化した実践演習～

進化を続ける生成AIですが、その活用に頭を悩ませる経営者もいるでしょう。生成AIは、ビジネスシーンでの能率向上を見込める便利なツールとはいえ、中小企業では、まだまだ導入が進んでいないのが実情といえるかもしれません。今回は、生成AIを活用することで生まれるメリットとは何なのか、そして、その効果を上げていくための“人材育成”について考えてみましょう。

「生成AIなんてウチには関係ない」と思っている中小企業経営者は少なくありません。

総務省 令和7年版情報通信白書によると、生成AIを「積極的に活用する」または「活用領域を限定して利用する」と回答した中小企業は、大企業での割合が55・7％であるのに対して、34・3％にとどまっており(図表1)、その導入に遅れが目立ちます。

背景として上がるのは、「効果的な活用方法がわからない」といった声です(図表2)。

他方で、同調査では「業務効率化や人員不足の解消につながる」など、生成AIに期待する意見もあり、利便性は認識しているものの導入には後ろ向きになっているという実情がうかがえます。

中小企業こそAI活用を！

生成AIの活用によって人手不足、働き方改革、業務効率化といった慢性的な課題の解決を図ることは、中小企業にとって大きなチャンスを生むでしょう。

図表3は、生成AIを導入した企業の利用率を示すものです。大

う。そうするうちにアイデアが磨かれていきます。これがAIを用いた「壁打ち」の方法です。

生成AIとの壁打ちには、アイデアを多方面から検討できるメリットがあります。いつでもやり取りできますから、自らの考えを早く実現に導けるでしょう。

このように生成AIツールは業務の省人化・効率化を可能にし

す。ゆえにリソースの限られた中小企業こそ、AIの恩恵をもっとも受けられる存在といえるのです。

実践演習が育成の近道

せっかく生成AIを導入したのに、効果を実感できず、活かすれない。そんな悩みを抱える企業も増えています。

生成AIを企業に定着させるに

別すると「バックオフィス系」と「クリエイティブ系」、2つの活用方法があるとわかります。

①バックオフィス系での活用

文章作成機能を用いる「社内向けヘルプデスク機能」や「メールや議事録、資料作りの補助」などは、着実に導入が進んでいる分野です。先行企業では生産性向上に大きくつながっています。

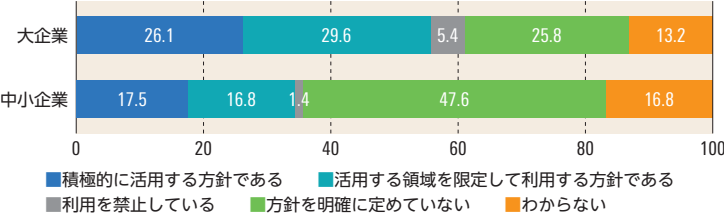
②クリエイティブ系での活用

「広報コンテンツ制作」や「事業

は、単なるツールの導入だけでなく、活用のための人材が不可欠です。しかし、その育成は一朝一夕にできるものではありません。

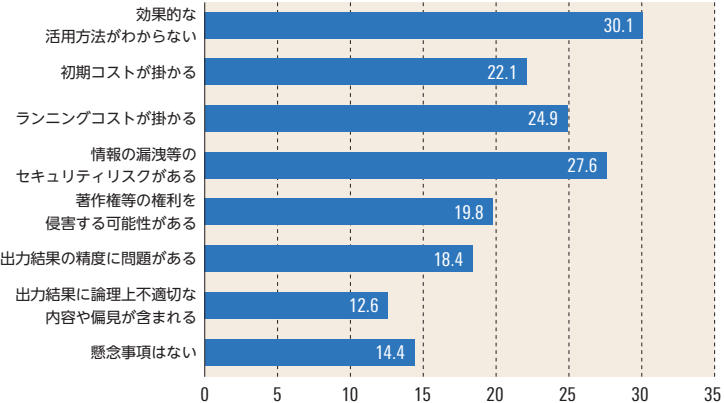
その支援を強みとしているのが、京都を拠点とする教育系シンクタの株式会社社成基総研。同社は企業向けの「生成AI活用・課題解決力強化研修」を行っており、単なるツール導入・スキル習得にと

図表1▶生成AIの活用方針策定状況



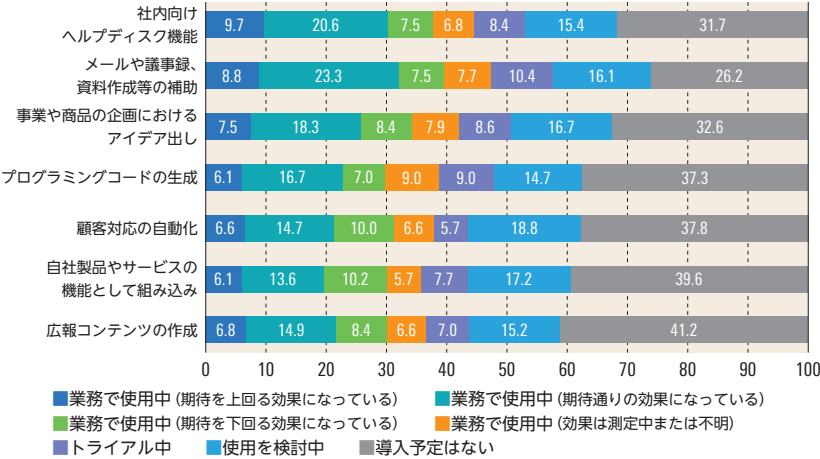
出典：「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究（2025年版）」(総務省)を基に京都総研コンサルティングが加工して作成

図表2▶生成AI導入に際しての懸念事項



出典：「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究（2025年版）」(総務省)を基に京都総研コンサルティングが加工して作成

図表3▶企業における業務での生成AI利用率



出典：「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究（2025年版）」(総務省)を基に京都総研コンサルティングが加工して作成

図表4▶生成AI活用・課題解決力強化研修

研修基本情報			
対象者	受講形式	受講費用(1名様あたり)	受講時間目安
生成AI未活用の方 生成AIの活用が不十分な方	eラーニング	148,500円(税込) ※作成時点(2025年8月)	約12時間
講座内容(一部カリキュラムより抜粋)			
AI基礎知識		思考強化スキル	
● AI時代に求められる人材とは		● 生成AIを活用するために必要な思考力	
● 生成AIの発展と拡大する影響		ー ロジカルシンキング	
● 企業と個人におけるDX		ー MECEの概念とロジックツリー	
● 生成AI活用／不活用で広がる格差		ー 課題思考、仮説思考、多角的思考	
● 生成AIが用いている技術		DXと課題解決	
● AIを扱う際の注意点		● DX推進で効果的な業務の取り組み方	
実践的活用法		ー 課題とタスクの違い	
● 日々の業務で生成AIを活かすには		ー 業務を構造的に理解する	
● プロンプトエンジニアリング基礎		ー イシューを特定するためのテクニック	
● 生成AIにプロンプトを生成させる		● 生成AIを使って企画書を作成する	
● 生成AIを使った壁打ち手法		● 生成AIの回答を活かす創造的課題解決法	
● 生成AIの特性を踏まえた業務フロー		● ケーススタディ	

出典：成基総研の資料を基に、京都総研コンサルティングが作成

どまらない、「業務に定着させる」までを見据えた支援に力を入れているのが特徴です。

カリキュラムでは生成AIの基礎知識に加え、さまざまな業務を想定したケーススタディや47種類の実践ワークショップを組み合わせていきます(図表4)。

使いこなすための知識とスキルを身に付けた人材ならば、AIの定着を促進し、企業の課題解決に大きく寄与することは間違いありません。実務中心の演習だからこそ、即座に業務に活かせます。

さらに一定の条件を満たせば、国からの助成金取得も可能です(2025年8月時点の情報)。

生成AI活用と聞くと、スケールの大きな話に思いがちですが、その一丁目一番地は「まず使ってみる」こと。議事録やメール文案作成といった小さな業務での活用が変化の起点となり、やがて企業全体の変革へとつながります。

株式会社京都総研コンサルティングは、株式会社社成基総研とともに、生成AI活用人材の育成支援を行っております。ぜひ、お気軽にご相談ください。